

救護活動

東日本大震災被災地の 歯科医療救護活動に参加



南三陸町志津川地区

の施設などの避難所やデイケア、グループホームなどを訪問し、歯科検診を中心に義歯調整や清掃指導、口腔機能訓練、口腔ケア等の歯科医療救護活動を実施し、さらにその後、仮設住宅を訪問し歯科相談を受けました。仮設住宅に移り住む方が増えて避難所は閉鎖傾向ですが、残っている避難所は近隣市町村の広範囲に点在することになり、現地の歯科スタッフは訪問だけでもとても大変だということでした。

日 本歯科医師会からの要請により、7月3日から11日までの9日間、福岡学園より歯科医師 廣藤卓雄(福岡歯科大学 総合歯科学分野 教授)、歯科衛生士 堀部晴美(福岡医療短期大学 歯科衛生学科 教授)、歯科衛生士 上村吏絵(福岡歯科大学医科歯科総合病院)、歯科衛生士 的野操(介護老人保健施設サンシャインシティ)の4名が、宮城県南三陸町に赴きました。

この南三陸町は、宮城県北東部で太平洋に面しており、津波による大被害を受けて、歯科医院も6軒流され歯科医も亡くなられたとの事でした。現地の歯科医師、歯科衛生士のコーディネートの一環で、南三陸町の施設、小・中学校、老人施設、ホテル、近隣の登米市

被災地では町行政そのものが消失しており歯科医療のみならず全てが再建途中との感じでしたが、被災地の方は、できることから皆さんが率先して頑張っておられました。我々も、一人の故障者も出さずに、無事に任務を完了できました。今回の経験は、我々にとって大変貴重なものになったと思えますし、改めて我々も頑張らなければという気持ち強くしました。



避難所における歯科救護活動

「がんばれ宮城！
がんばれ東北！
がんばれ日本！」

【南三陸町の被害状況】

- 1万7千人の人口のうち人的被害は6月時点で死者・行方不明者1,200人超
- 町内の避難者2,700人
- 町外および県外への避難者1,800人余り
- 建物被害は全壊3,166棟 大規模半壊91棟 半壊54棟で、被災率61.1%

健康診断

早良区板屋地区で 健康診断を実施

7月13日、本学の高齢者歯科学分野が早良区の地域保健福祉課と合同で健康診断を実施しました。



2名、医師1名、看護学生2名の計18名で板屋地区の住民23名を対象として、口腔検診や口腔機能検査及び血圧測定、栄養指導等健康調査を実施しました。健康調査を受けた住民の方からは、「診てもらえて安心した」「町に出るまで片道千円、2時間かかるから、病院に行くのも1日がかり。来てもらえて本当に助かる」と言った感謝の声が多く寄せられました。また「長生きの世界記録を作るのが夢」と本当に元気な方が多いのがとても印象的でした。

板屋地区は、福岡市の南、福岡県最高峰の脊振山(1055m)の腹に位置し、地域住民31名のうち65歳以上の住民が64%を占めている山間の小さな集落です。板屋地区までのバスは2003年に廃止となり、現在は公共交通機関による往来は不可能なうえ、最も近い診療所まで10キロ以上と、生活する上で便利とは言い難い地区です。高齢者が安心して暮らせるような医療の確保と予防などの保健事業の展開等に必要な支援について検討するため、本学の内藤徹准教授(高齢者歯科学分野)と早良区地域保健福祉課の保健師を中心に板屋地区の高齢者の支援事業に2010年5月より取り組んできました。

毎月1回板屋地区を訪問し、健康教室を開催したり、聞き取り調査を実施したりと地域住民との交流を深め、地域住民との相互理解も深まってきたことから、今回の健康診断を行う事ができました。今回は、本学から歯科医師10名、早良区から保健師3名、栄養士

「早良区の保健福祉課から板屋地区の保健事業の話が来たときには、福岡市の中にこんな地域があったのかとびっくりしましたが、ここで生まれ育った方たちにはかけがえのない場所でしょう。地域住民の健康の支えになればありがたいと思います。」というのは、健診を担当した内藤准教授の弁。健診の結果を、住民の健康指導に反映させ、さらに同様な医療過疎を迎えつつある他の地域のモデル事業となればありがたいことだと思えます。

なお、この健康診断の様子には、地元福岡のニュースとしてテレビでも取り上げられました。



テレビ局からインタビューを受ける内藤先生